

令和8年度

指導班だより

R8.7.29(水)

宮城県大河原教育事務所 指導班

複式授業が育む「自立」と「協働的な学び」

今年度、夏休み前までに実施された学校訪問では、対話を重ねながら主体的に学ぶ子供たちの姿がたくさん見られました。訪問の振り返りアンケートの集計から、学年や教科の壁を越えた事前・事後検討会を通して、協働による授業づくりのよさを実感された先生方が多かったようです。

さて、管内の児童生徒数の減少により、複式授業を実施されている学校が増えてきています。間接指導のある複式学級という形を生かして、児童の自主的、協働的な学びを促そうと小学校1、2年生の算数科の授業に取り組まれた事例を紹介いたします。単元名は1年生「10より大きいかず」2年生「さんかくやしかくの形をしらべよう」です。

(1)何度も話し合いを重ねて完成した指導案

この学校では、C訪問であることを踏まえ、指導案作成に入る前に、「複式授業の授業力を高める」という共通テーマを基に単元の組み合わせや進度調整などを話し合いました。その後、指導過程を中心に検討を重ねるなどし、1回目の学校訪問時には、全職員で課題や評価について議論しました。

その後、児童の実態を踏まえた「より主体性が高まる課題の設定」「間接指導が充実するような工夫」など、さらに細かい点についても検討を重ねました。

このように、何度も話し合いを重ねた結果、実際の授業進度に合わせた指導と評価の計画や、直接、間接指導が一目で分かる指導過程など、実践的な指導案を作成することができました。ぜひ、参考にいただければと思います。

1年生(全9時間扱い 本時4/9)			2年生(全10時間扱い 本時8/10)		
単元	時	主な学習活動	単元	時	主な学習活動
6	1	○絵を見て、場面を捉える。 ○ブロック操作をする。 ○減法の意味を統合する。	1	1	○辺や頂点の数を数え、パズルの各ピースを仲間分けする。
	2	○2つの数値の関係を捉え、表裏の場面であることを捉え、ブロック操作を用いて説明している。 【思・判・表】 【観察・ノート】	2	2	○「三角形」「四角形」の意味や性質を理解する。 ○用語「辺」「頂点」を知る。
	3	○絵を見て、いろいろな観点で捉え、求値、求差の場面を捉え、7-4=3の式になるお話をつくる。	3	3	○三角形、四角形を分類する。 ○ドットを直線で結んで、三角形や四角形を構成すること。
8	4	○「たしかめよう」に取り組む。	4	4	○身の回りから四角形の形を見つけたものを提示し、その形の中にある直線を見つけること。

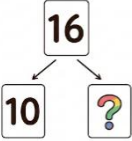
指導と評価の計画について、複式授業として実際に行う組み合わせで作成されている。

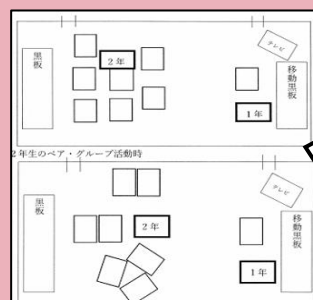
段階	主な学習活動	指導上の留意点【視点】	教師の動き	主な学習活動	指導上の留意点【視点】	教師の動き	段階
導入(10分)	1 計算スキルで前時までの復習をする。 2 数カードで足し算引き算を練習する。	○計算スキルが終わった児童には、数カードで足し算引き算など、これまでの学習の復習に取り組めるようホワイトボードに学習手順を提示しておく。【1-①】 ○ひらがなを並びに支援が必要なため、適宜支援員と一緒に読み問題に取り組ませる。	間接	1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 方がん紙をつかった、図形クリエイターになる。	○前時までに学習した図形の性質を黒板に提示しながら振り返る。 ○目盛りを隠した定規で図形を作図する様子を見せ、活動への興味や意欲を高める。【1-②】 ○各自「学習計画」を見ながら本時のめあてを確認させる。【1-③】	直接	導入(10分)
展開前半(15分)	3 隠れている数を考え、本時のめあてを知る。 ・数カードが13で10のまとまりが1つあるから隠れているのは3かな。 ・14はいくつと4だったかな。 かくれているかずのみつけたを2ねんせいにたえよう。	○なぜそう考えられるか問、13は10と3だからという数の構成を算数ブロックで確かめさせる。	直接	2 かくときのポイントを確認する。 ①はじまりと終わりは同じ頂点 ②定規はまっすぐな線をかくために使う	○作図した方眼紙を黒板に提示し、常に目に見える状態にしておくことで、友達のを参考にしながら作図することができるようになる。【2-①】 ○直角三角形を作図する際、初めの1辺に個々の児童を見ながら、1辺だけ引かれた方眼紙を準備し、作図の仕方を伝えるようにする。 ○(1)(2)は個人で作図し、(3)はペアやグループで作図する。	間接	展開前半(15分)
展開後半(13分)	4 数カードとブロックを使って問題を出し合う。 ①問題を自分で作る。 ②作った問題を支援員に出し、答えをもらう。 ③作成した問題を指差し、ロイロノートに提出する。 ④⑤の繰り返し	○教師や支援員とともに、数カードとブロックで問題を出し合う。 ○前時までの学習を黒板に提示し、悩んだ際に自分で確認するヒントにできるようにする。【1-②】	間接	3 方眼の仕組みを考えながら作図する。 ・ますの形が正方形に見えるよ。 ・方眼紙にたてもよこも1cmって書いてあるから正方形かもしれない。 ・長さのたんの学習のときにも出てきた気がする。 ①問題の図形をかく。 ②できたものは黒板に提示する。	○直角三角形に限定し、辺の長さを自分で決めて作図することで、直角をはさむ辺を決めると作図することができることを見つけさせるようにする。 ※方眼を利用した長方形、正方形、直角三角形のかき方を、方眼の仕組みや図形の性質に着目して考え、作図している。(観察・ワークシート)	直接	展開後半(13分)
終末(7分)	5 作った問題を確認する。 ①数カードとブロックの数が合っているか。 ②答え方が合っているか。 6 練習問題に取り組む。20までの数の構成についての理解を深める。	○「15は10と5だから、隠れている数は5のように伝えられるように話型を提示する。」 ※20までの数の構成を理解し、20までの数を10といくつとのかきとして捉え、分解することができる。(観察・ノート)	直接	4 方眼の仕組みを知り、作図した図形を振り返り、まとめる。 方がん紙のますが正方形になっていることをつかうと、図形がかけれる。	○1年生の発表を聞き、これまで学習してきたことを振り返らせる。 ○振り返りシートに自己評価をさせ、自身の達成度を確認させる。【1-④】	直接	終末(7分)

指導案集を開いた際に、見開きで2学年分の指導過程が確認できるよう工夫されている。

(2)実際の授業～複式授業で特に留意したいこと～

実際の授業の中で、児童にどのような学びの姿が見られたのか、また、複式授業の指導における留意点、工夫点を表にまとめました。複式授業を実施されている学校でなくても大切な点となりますので、授業づくりの視点の一つとして御覧ください。

1年生（1名）学びの姿	2年生（8名）学びの姿	留意点・工夫点
- 間違えても、粘り強く繰り返し「いくつと いくつ」の問題に取り組んでいた。 「2年生に伝える」というめあてから、「やりたい」と意欲が高まっていた。 - 何度も繰り返し問題づくりと解説の練習に取り組んでいた。 2年生に問題を出し、正誤だけでなく、なぜそうなるのかを説明しようとしていた。 - 先生が意図的に誤答を示したことで、説明の仕方を考えようとしていた。 	- 単元の学習計画を確認し、見通しを持つ。「できそう」と意欲が高まったつぶやきが見られた。 - 図形をかく際に、どこからかき始めるか、どのようにかくときれいにかけるのか試行錯誤していた。 「分かりにくいから、点を先にかいた」等、根拠（理由）を示しながら自分の考えを発表していた。 - 何度もかくうちに、直角三角形を正確にかけるようになっていた。 1年生の解説を聞き、数の構成を振り返っていた。 	★間接指導に入る前の2年生には丁寧に見通しを持たせていた。また、1、2年生ともに意欲を引き出すような課題を設定し、間接指導の時間にも自主的な学びにつながるようにしていた。 ★1年生は知識・技能の定着を図るために繰り返し練習の時間を、2年生は思考させる時間を確保していた。直接・間接指導の時間にも軽重をつけていた。 ★直接指導時に、1年生は先生に説明をさせ、2年生は図がかけているか1人1人のシートを確認して、学びの状況を見取っていた。 ★子供の学びが深まるような発問や、（なぜ方眼紙で正方形や直角三角形がかけられるのか）問い返し（1年生への意図的な誤答）を行った。 ★1、2年合同による振り返りの時間を設定した。



指導案の中には、意図的な「場の設定」も計画されています。

(3)事後検討会～子供の学びの姿を追う～

授業終了後、全職員で検討会を実施しました。

「〇〇さんは、概念形成が途中まで進んでいる。そこでさらに問い返すことで、概念がしっかり形成されていく。」「めあてを確認したときに目が輝いた。」「〇〇さんの発言を全体で取り上げると学びがより深まった。」等、子供たちの具体的な姿を挙げながら、よかった点を述べたり、別の視点からの提案をしたりするなど、先生方の姿が、まさに「協働的な学び」となっていました。夏休み以降も、学校全体で協働的に実践を積み重ねてほしいと思います。

まとめ

複式授業では、間接指導の際のガイド役となる児童を育てたり、多学年の子供の意見を取り入れたりするなど、子供が自立的に学びを進める環境を整えることが大切だと言えます。